

メヴリュット・チャヴシュオール・トルコ前外相
ビデオメッセージ 和文仮訳

親愛なる友人の皆様、このように著名な方々に御挨拶できることを光栄に思います。このような会合を開いてくださった日本と岸田総理に感謝いたします。トルコは常に軍備管理、軍縮、不拡散に取り組んできました。もちろん、核兵器不拡散条約（NPT）を含め、この分野におけるすべての主要な枠組みに参加しています。

私たちは、NPTの3本柱の全てにコミットしています。そのゆえ、核軍縮という目標にもコミットしています。しかし、核軍縮の達成は「言うは易し、行うは難し」であることも認識しています。

安全保障環境が考慮されなければなりません。何よりもまず、全ての核兵器国と核保有国の意思が必要となります。

万が一、その「不可能」が達成されたとしても、実際の核軍縮を確実なものにするために、強固な検証を伴う長期的なプロセスが必要となるでしょう。だからこそ私たちは、核軍縮という目標に向けたステップバイ・ステップの、段階的なアプローチを常に支持してきました。

親愛なる皆様、「核兵器のない世界」を目指す現在の国際環境は、以前にも増して困難な状況にあります。現在進行中のウクライナ戦争は、核に関するレトリックを深刻なほどに高めました。中国は強力な核近代化計画に着手していることが知られています。

北朝鮮は、度重なる国連安保理決議にもかかわらず、気まぐれな核・ミサイル活動を続けています。その上、イスラエルの閣僚が、ガザに核爆弾を落とすと脅しをかけることで、初めてイスラエルの核兵器保有を認めました。残念ながら、この発言は多くの国で聞き漏らされることになりました。もしこれが他の国であれば、そうはならなかったでしょう。

現在の不安定な安全保障環境において、特に一部の非NPT締約国が無責任な行動に出る可能性がある状況は、多くの国が「核に強くなる」方法を模索する引き金になりかねません。それは、NPTを中核とする世界的な不拡散体制全体の解体につながりかねないのです。そうなれば、核軍縮という目標からますます遠ざかることになるでしょう。それは、誰の安全にもつながりません。

そのため、この重大な局面で不可欠なのは、世界的な不拡散体制を維持できるようにすることです。イスラエルが最近認めたことを含め、すべてのNPTの締約国でない核保有国の問題に取り組むことは、この方向への一歩となるでしょう。今週、グロッシー IAEA 事務局長がそのための呼びかけを行ったことは非常に重要であり、遅滞なくこれに応える必要があるでしょう。ありがとうございました。